

方広寺跡発掘調査広報発表資料

2021年 2 月10日

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 在 地：京都市東山区茶屋町 527 京都国立博物館構内

調査期間：2020 年 9 月 28 日～2021 年 5 月中旬（予定） 調査面積：547.4 m²（予定）

遺跡の概要

今回の発掘調査は、京都国立博物館の施設整備に伴うもので博物館構内第 15 次調査である。調査区は明治古都館北東側に位置し、方広寺大仏殿跡の南東部にあたる。方広寺大仏殿は、永禄 10（1567）に焼亡した東大寺大仏殿に代わるものとして、豊臣秀吉が文禄4年（1595）に造営したもので、東大寺の大仏殿をしのぐ巨大建造物であった。慶長7年（1602）大仏殿は、豊臣秀頼による大仏鑄造工事中に出火し全焼するが、慶長 19 年に再建されている。この様到大仏殿は秀吉期と秀頼期に分かれるが、今回の調査では、秀吉期の 大仏殿を囲む施設に関連する遺構を検出した。

調査の成果

礎石4・5 地表下 0.3mで検出した東西に並ぶ2基の礎石。石材は花崗岩。礎石は、溝状に地面を掘り下げて、その中に据え付けている（布掘り：幅約 0.9m・深さ約 0.4m）。礎石の大きさは、礎石4が 0.55×0.50m・厚さ 17 cm以上、礎石5は 0.95×0.50m・厚さ 40 cm。いずれも上面に長方形のホゾ穴（礎石4：14×7cm、礎石5：11×6cm）を穿つ。ホゾ穴間は 3.3m(11 尺)である。礎石の上面と南面は平坦に丁寧に仕上げられているが、北面は割ったままで、南を正面としていたことがわかる。石材を割る際に穿たれる矢穴は、京都新城（慶長2年 1597、豊臣秀吉築造）と同じ古 A タイプ（森岡秀人氏分類）である。この礎石は、形状・矢穴の特徴・検出位置などから秀吉期の 大仏殿南築地塀の寄柱の礎石とみられる。

柱列1 調査区北部で東西方向に並ぶ柱列。柱穴の大きさは径 0.3 ～ 0.7m、深さ約 0.9m。柱間は、西から 1.7・3.4・1.9mと不等間である。築地塀建設時の足場穴の可能性がある。

溝 24 東西方向の溝。幅 0.8 ～ 1.0m、深さ 0.15 ～ 0.3m。東西約 17.5mを検出した。造営期の整地層下層で検出したことと出土した土器の年代から、造営工事中に掘られた排水溝とみられる。

溝7 東西方向の溝。幅約 1.5m、深さ約 1.6mの溝。東西約 14.5mを検出した。方広寺境内の主要排水路とみられる。寛政 10 年（1798）の落雷による大仏殿焼亡に伴う焼け瓦や陶磁器が出土した。

まとめ

今回検出した2基の礎石は、矢穴からみた年代観や検出位置から秀吉期の築地寄柱に伴うものと判断している。方広寺については、秀吉期と考えられる石塁と秀頼期の南回廊や南門とは、その方位がわずかに異なっている（秀頼期の南門・南回廊の方位は石塁よりも東で南へ約1度振れている）。秀吉が構築した石塁の南西隅の石材の上面には、築地隅柱に伴うと考えられているホゾ穴（径 18 cm）があり、このホゾ穴と今回検出した礎石のホゾ穴を直線で結ぶと、石塁と同一方位であることがわかる。また、この2点間距離は約 198mあるが、高低差は50cmとほとんどない。これらのことから今回検出した2基の礎石は、秀吉期の築地に伴うものと考えられる。これまで大仏殿区画施設関係の遺構は、秀頼期の南門や南回廊が確認されていたが、今回の調査により秀吉期の 大仏殿復元の定点を得る貴重な発見となった。

なお、2基の礎石は京都国立博物館により、現地で保存されることが決定している。

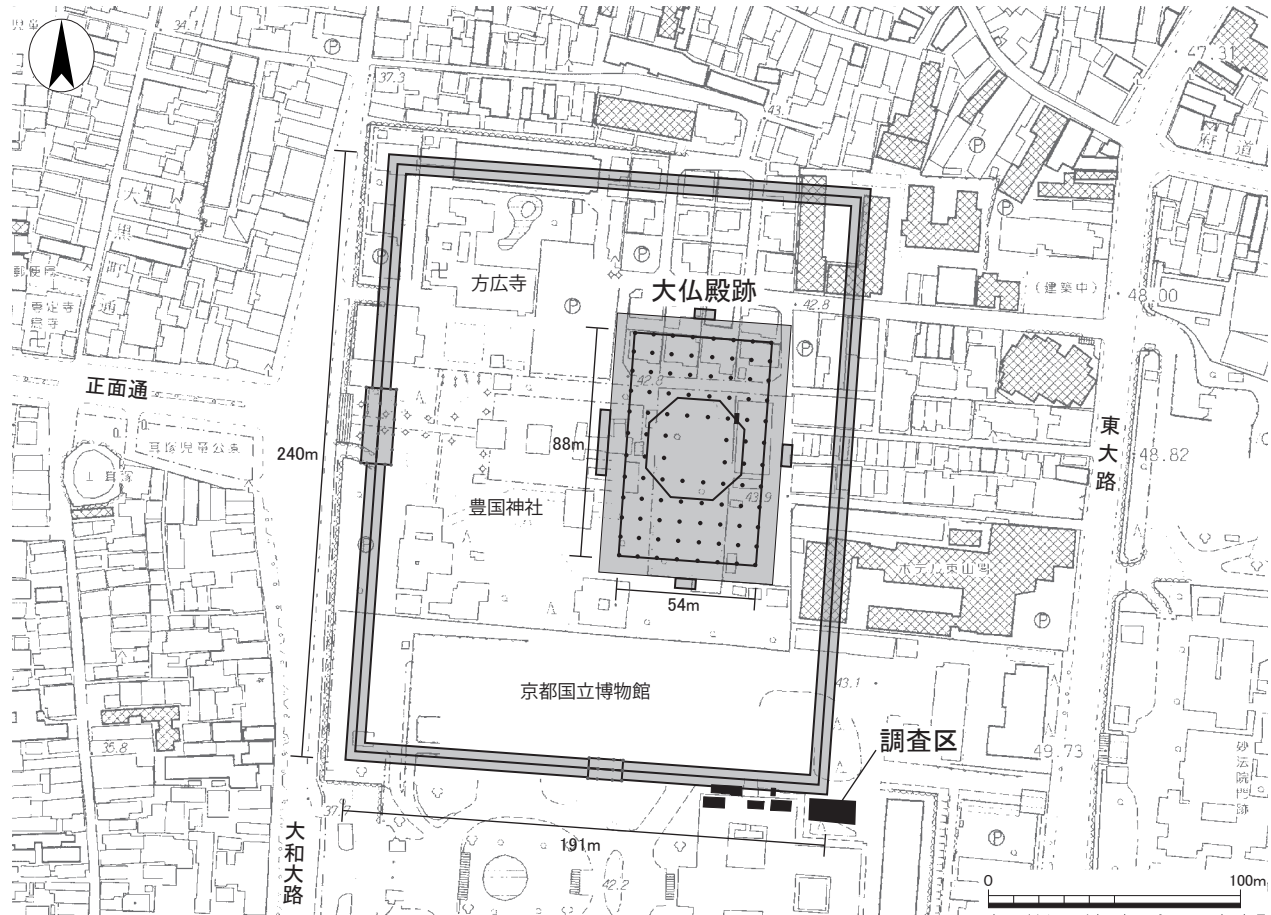


図1 調査位置図(1:3,000)

方広寺関連略年表

年 号	西 暦	事 柄
天正13年	1585	秀吉、関白となる。
天正14年	1586	東福寺周辺で大仏殿の建立を計画。
天正15年	1587	聚楽第完成。
天正16年	1588	三十三間堂北側で大仏殿工事開始。
天正19年	1591	大仏を金銅仏から漆膠仏に計画変更する。御土居の築造。
文禄 4 年	1595	大仏殿ほぼ完成する。
文禄 5 年	1596	慶長伏見地震により大仏破損、3 方の築地が崩壊。
慶長 3 年	1598	7 月、善光寺の如来像が方広寺本尊仏として到着、秀吉の体調悪化により返送。
慶長 4 年	1599	8 月18日、秀吉伏見城にて死去。秀頼、大仏殿整備工事を着工。大仏は金銅仏に決定。
慶長 5 年	1600	関ヶ原の戦い。
慶長 7 年	1602	鑄造中の大仏より出火。大仏殿炎上。
慶長13年	1608	秀頼、大仏殿再建工事を着工。
慶長19年	1614	大仏殿ほぼ完成するが、「方広寺鐘銘事件」が起きる。
慶長20年	1615	大坂夏の陣、豊臣氏滅亡。
寛文 2 年	1662	地震のために大仏破損、鑄潰され銅銭に。木像仏に作り替えられる。
寛政10年	1798	大仏殿落雷のため全焼。
天保年間	1830～43	半身像と仮堂が再建される。
明治 3 年	1870	境内地の多くが国有地となる。
昭和48年	1973	火災により天保大仏が焼失する。

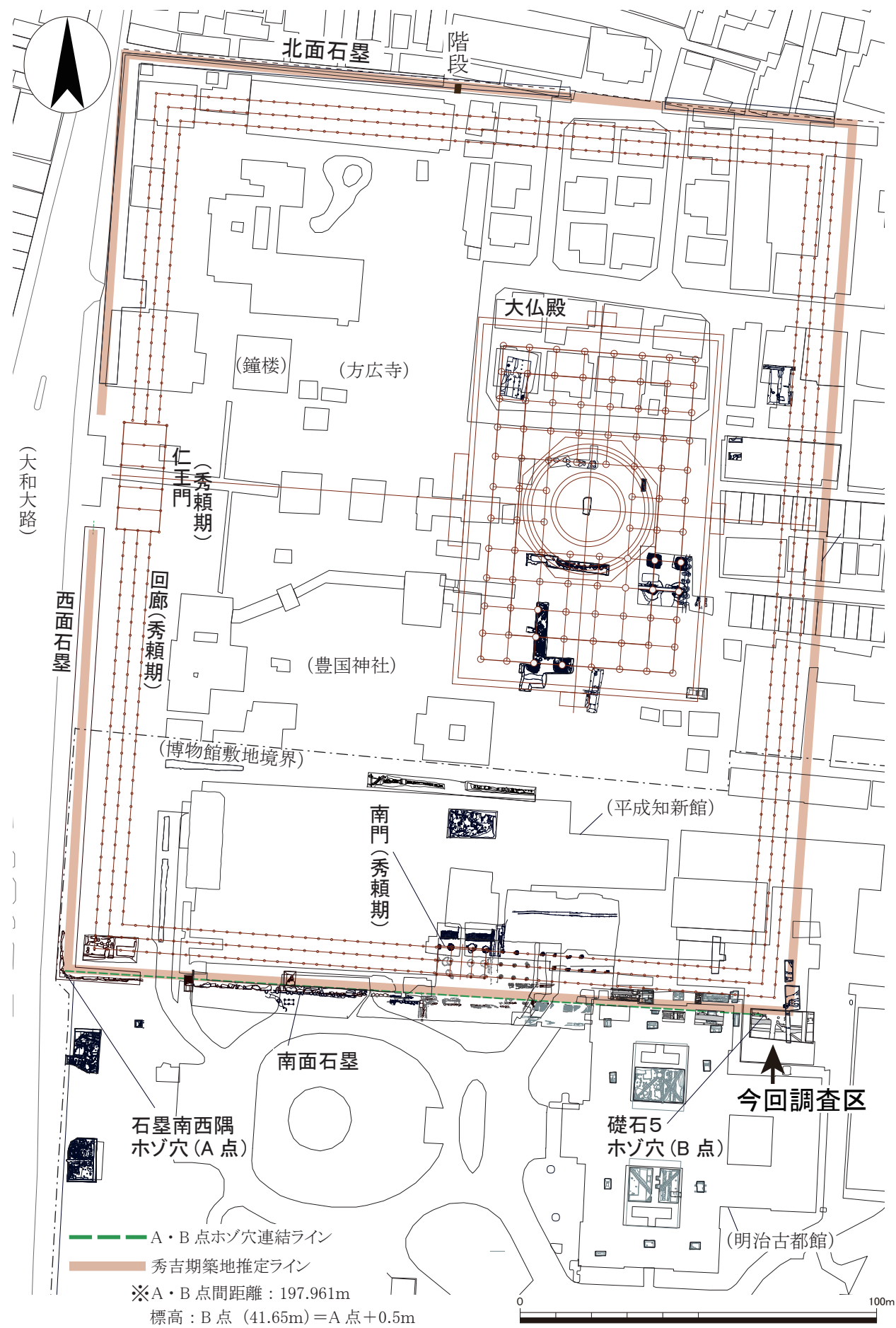


図2 方広寺大仏殿調査区配置図(1:1,500)

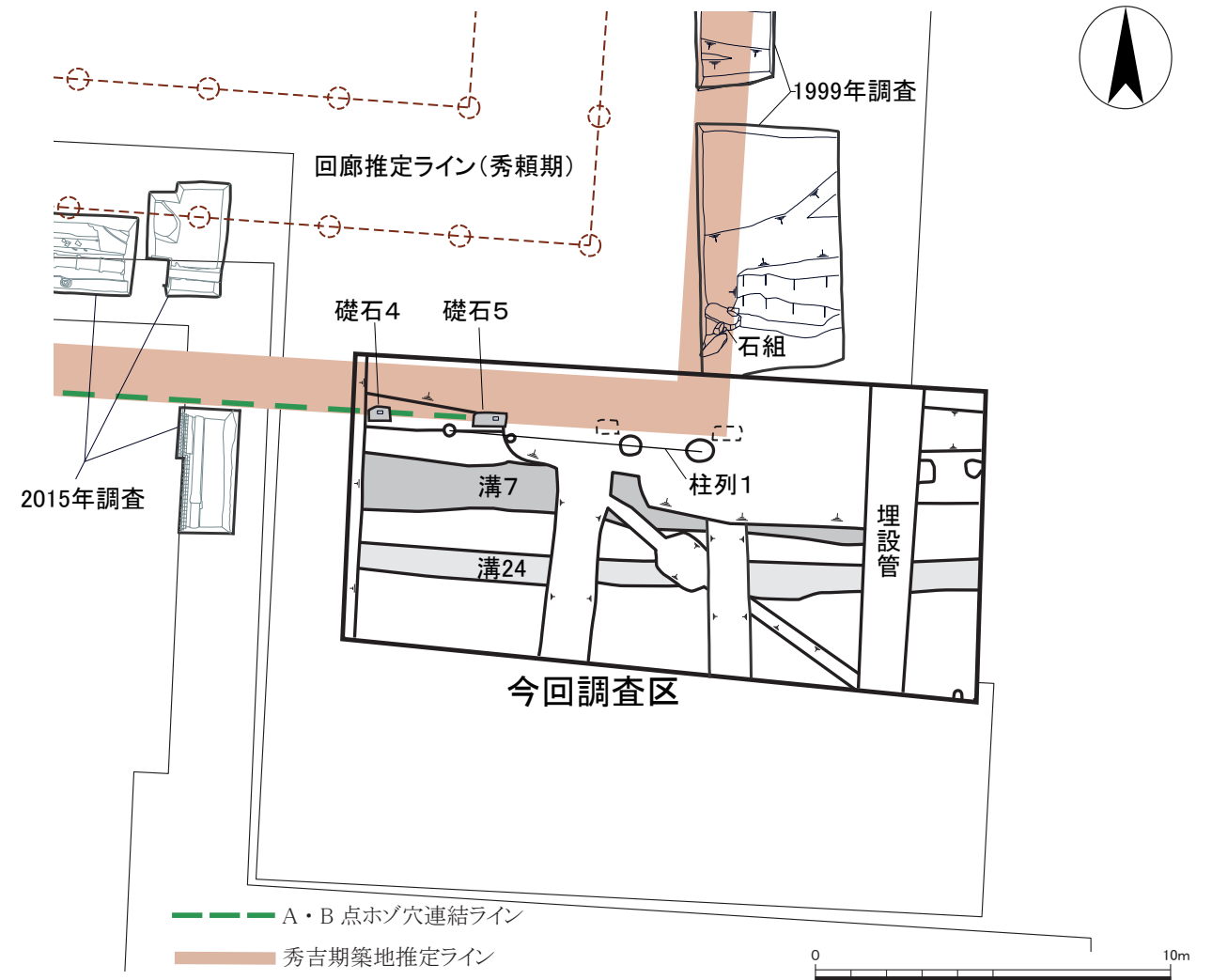


図3 調査区平面 (1:200)



1 調査区全景 (東から)



2 礎石4・5 (南東から)



3 礎石5前面 (南東から)



4 礎石5背面 (北東から)